

番場遺跡について

調査期間：令和元年 5 月 8 日～6 月 26 日

調査面積：290 m²

調査原因：真桑幼児園移転（真桑小学校北）にともなう市道拡幅工事

船来山南麓の扇状地に立地する遺跡です。調査地からは船来山古墳群を望むことが出来、船来山西麓が良く見える場所です。当遺跡には字「番場」という小字が残されており、東西方向に東山道が通っていた位置にあります。古から交通の要所であったことが予想され、周辺にも濃密な遺跡の分布が確認されています。

2. 今回の調査成果について

今回は、市道拡幅に伴う調査であり、わずか幅 2m の調査区でしたが、竪穴住居跡が 35 軒出土しました。とくに古代の住居跡が多く出土しており、出土遺物より古代の竪穴住居跡が 33 軒、弥生時代終末期から古墳時代初頭の竪穴住居跡が 2 軒と考えられます。柱穴も多数出土し、このうち 4 基は掘立柱建物となる可能性が高く、桁行 3 間梁行 2 間の総柱建物である可能性も高い遺構であることが判明しました。

竪穴住居跡（SB8）から鉄滓が数点出土したほか、奈良時代の遺物を伴う竪穴住居包含層から墨書土器 1 点（須恵器有台坏身底部）が出土しました。この墨書土器については、専門家に見ていただいたところ、「〇福」という吉祥語句と判明しました。本調査中に墨書土器が出土したのは初めてであり、本巢市の歴史にとって大変貴重な成果を得ることが出来ました。

3. 昨年度の調査成果と検討して

遺跡の中心時期は奈良時代後半から平安時代初頭の 8 世紀後半に求められるのではないかと考えられます。昨年度の成果と合わせると、竪穴住居跡が 108 軒出土しました。古代の本巢郡を代表する、一大集落跡であったことが判明しました。このほか弥生時代終末期の方形周溝墓の可能性のある遺構、大溝、古代の掘立て柱建物跡が出土しており、時代も弥生時代終末期・古墳時代初頭の時期（3 世紀後半）から古代（8 世紀）の時期まで多岐にわたっています。

古代のモトスについては、大宝戸籍の成立（702 年、本巢郡栗酢太里）、席田郡建郡（715 年）等がありますが、特に番場遺跡周辺の本巢市軽海、宗慶周辺は本巢郡栗酢太里の比定地とされており（鈴木 2003）、今回の出土内容についても古代の遺物遺構が多いことから、何らかの関係があるのではないかと考えられます。調査地より北へ 500m の場所には東山道推定地があり、大宝戸籍（702 年）中の美濃国本巢郡栗酢太里比定地であるとともに古代本巢郡の中心地、交通の要所であった可能性も考えられます。

（参考文献 鈴木正信「残された戸籍と比定地 本巢郡栗栖太里」『美濃国戸籍の総合的研究』東京堂出版、2003 年）

※調査成果は現段階までの検討を基にしています。今後の調査の進展により内容の改変もあります。十分ご留意ください。